體にフィットするの必要なく,却つて緩やかに身體を被へることによりて子供らしき調和美が作り出さるゝを以て,割合によりて製圖するも亦可なり。されど割合は一の方便として使ふべきものにして,割合に支配さるべきものにあらざることを常に念頭に置き,割合萬能の考に囚はるゝことなく,着用者に基きて作ることを第一義とするを要す。割合は未だ洋服を用ふる子供少く,從つて實際に着用する材料を得るの途乏しかりし時代には,誠に便利なる手段なりしも,着用者を眼前に控ふる場合にまで用ふるの必要はなし。ドレッスの長さを胸圍と等しくせんか,胸圍より短かくせんか,或は長くせんかを考ふる間に,着用者の實際の着丈を度る方遙に速かにして正確なり。我々の目的とすべきは,子供に適へる形よきドレッスを作るにあり。良き形,適へる形が如何なるものなるかを識別する力を養ふまでの方便として割合を用ふるは可なれど,割合に終始して,眼を以て形を識別する能力を得ることを二次的に見るは斷じて不可なり。

標準寸法によりて製圖を學習することは,學習の效果を殺ぐ嫌あるを以て避くべきことは既に述べたり。されど子供服の學習に當りて着用者を得難き場合,或は自分の度りたる寸法が甚しき相違なきか否かを調ぶる場合等に於て必要を生ずべきを以て卷尾に掲げたり。されど先づ着用者を定めて寸法を度り,その寸法によりて

學習するの順序を出來得る限り採るをよしとす。

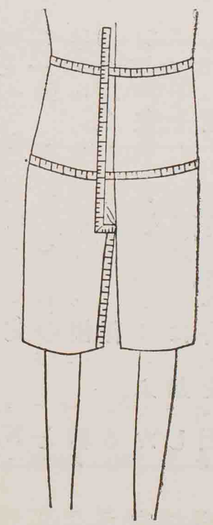
男兒のヅボン類を製圖する爲には以下の諸寸法を度る必要あり。

ウエイスト
ヒップ　シート(Seat)とも云ふ　｝婦人物に同じ。

胯下　第六十七圖の如くスクェヤーの角にテーイプメジュアを卷きてピンにて留めたるものを挿入して好みの丈に度る。幼兒は膝上までの物を用ふることあれど,一般には膝下の好みの位置までとす。

胯上　スクェヤーのウエイスト線に觸れたる所より,スクェヤーの幅を減ず。

脇丈　胯下と胯上の和。



第六十七圖　胯下胯上の度方

バストは男兒の場合にはブレスト(Breast)と呼ぶ方普通なり。

第二　原型の製圖（第六十八圖）

X　X＝直線。後の中央。C.B.を以て表はす。

1　2＝脊丈。割合による場合には全身長の四分の一或は$\frac{バスト}{2}-\frac{バスト}{24}$。

3　1＝$\frac{脊丈}{2}$。

4　＝3 1の中央。

5　3＝$\frac{バスト}{2}$＋7.5糎。

6　＝5 3の中央。

7　6＝0.7糎。

8　4＝$\frac{脊幅}{2}$。割合による場合には$\frac{バスト}{8}+\frac{バスト}{12}$。

9　＝8よりC.線に出したる垂線とB.線との交點。

7′ 7 ｝＝1.5糎。
9′ 9 ｝

10　8＝9 8の延長線上に4 8の三分の一を取る。

11　10＝0.7糎。11, 8, 7′に後袖附を畫く。

12　1＝$\frac{ネック}{6}$

13　12＝1糎。1より13に後衿肩を畫く。11,13を結ぶ。

14　＝C.線とC.F.線との交點。

15　14＝$\frac{胸幅}{2}$。割合による場合には脊幅の定め方と等しくするか又は0.7糎を加ふ。

16　＝15よりC.線に垂直に出したる線とN.線との交點。

17　16＝15 16の三分の一。

18　＝16 15の延長とB.線との交點。

18′ 18＝1.5糎。

19　＝N.線とC.F.線との交點。

20　19＝$\frac{ネック}{6}$＋1糎。

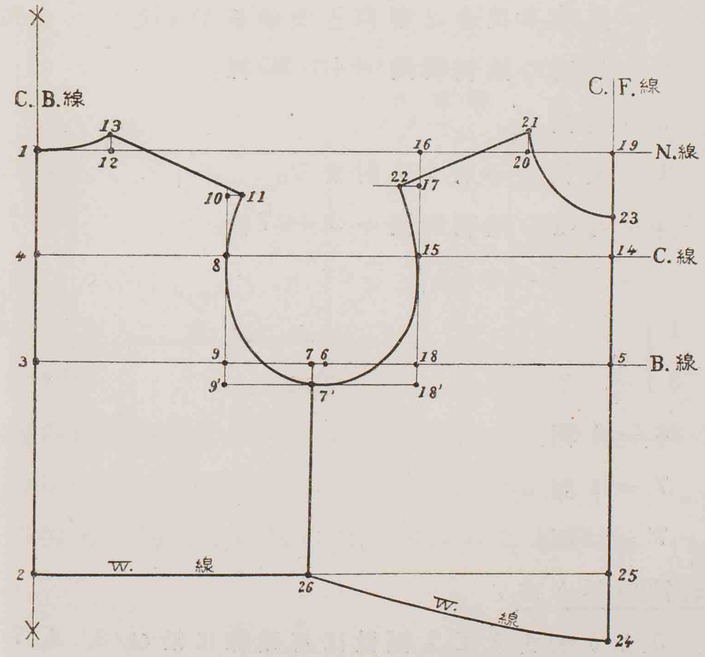
21　20＝1糎。

22　＝17より16 18線に出したる垂線上に定む。

22　21＝13 11−0.7糎。22,15,7′に前袖附線を畫く。

23　19＝$\frac{ネック}{6}$。21より23に前衿肩を畫く。

第六十八圖
原型の製圖



24　23＝前丈。

25　＝2よりC.B.線に垂直に出したる線とC.F.線との交點

25　24＝前後の差。

26　＝7よりB.線に出したる垂線とW.線との交點。

26,24の曲線をひく。

第三　スリーヴの製圖

Ⅰ　必要なる寸法

袖刳周圍。內袖丈。外袖丈。

Ⅱ　製圖の順序方法（第六十九圖）

X　X＝直線。

1　2＝身頃の袖刳周圍÷4＋2.5糎。

3　2＝內袖丈。

4　1＝外袖丈の肩より肘まで。

5　1＝身頃の袖刳周圍÷2＋0.7糎。

6　＝1 5の中央。

7　1 ｝
8　5 ｝＝ 1 5 / 3 。

8′　8＝1糎。

7′　7＝1糎。

9　7′＝0.5糎。

前袖の刳り方

5より始まりて1糎程は基礎線に沿ひ，8′ 6, 7′の

點を通りて1に終る。

後袖の刳り方

5より始まりて1糎程の間は基礎線に沿ひ8, 9を通りて1に終る。

10　5＝3 2。且,平行。

11　10＝1糎。

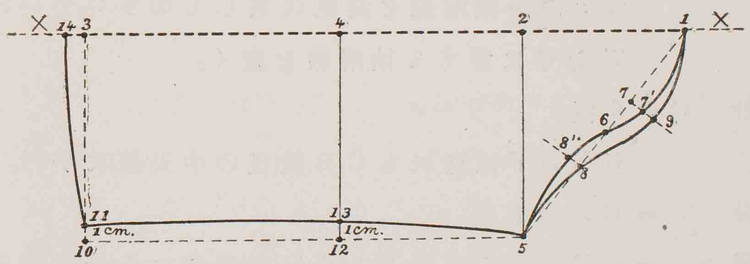
12　＝5 10線と4よりXX線に垂直に出したる線との交點。

13　12＝1糎。5, 13, 11の曲線をひく。

14　3＝1糎。14, 11の曲線をひく。

1 14は外袖丈と略等しくなる。

第六十九圖
スリーヴの製圖



袖の袖刳周圍の,身頃の袖刳周圍に對する弛み,袖の型紙の切り方等は全く大人物と同樣なり。

子供物の袖はこの儘の物を用ふること多し。

第四　ドレッスの製圖。原型よりの引伸し方。

(第七十圖。108頁の次に挿入)

I　タックしたる形 (寫眞版のA)

原型にタックの位置,深さ等を赤線の如く恰好良く畫きてより原型を寫す。出來上り圖(イ)のものは,タックの深さ0.6糎,タックの山より山までの距離1.6糎。C.線,B.線等が前後續く樣に注意すること大人物に同じ。

A　1＝ドレッス丈。

C　7′＝タックの深さ×6。

11′　＝10 11線を延長して,11よりタックの深さの六倍に取る。

13, 11′を結ぶ。

11, 7′の後袖附線を別紙に寫して切り,11を11′に7′をCに當てゝ袖附線を畫く。

D　C＝6糎。

C E,D Fは何れもC.B.線(後の中央線)に平行。

G　＝E Fの中央。

H　＝C Eを折りてD Fと合せ袖附線に合せて切る時は自ら定まる。

A_2　B＝24 25－(スカート後丈－スカート前丈)。

C_2　7″＝タックの深さ×6。

22′　＝17 22線を延長して,22よりタックの深さの六倍に取る。21, 22′を結ぶ。

D_2　C_2＝6糎。

22, 7″の前袖附線を別紙に寫して切り,22を22′に7″をC_2に當てゝ袖附線を畫く。

C_2E_2, D_2F_2は何れもC.F.線(前の中央線)に平行。

G_2　＝E_2F_2の中央。

H_2　＝C_2E_2を折りてD_2F_2に合せ前袖附に合せて切る時は自ら定まる。即ちC D及びC_2D_2の間は裏返し襞となる。

Y　2＝$\frac{バスト}{24}$。Yは後明の止り。

Ⅱ　胸繼ぎ形。ヨーク附とも云ふ。

(第七十一圖。108頁の次に挿入)

A　1＝ドレッス丈。

C　＝4 3の中央。

D　＝CよりC.B.線に垂直に出したる線と袖附線との交點。

E　D＝CDの延長線上にEを定む。DEは地質によりて一様ならざれども,CDの寸法と等しき程を普通とす。地厚のものは少くす。

F　7′＝ED。

D 7′の形を別紙に寫して切り取り,DをEに,7′をFに當てゝ寫す。

A_2　B＝24 25－(スカート後丈－スカート前丈)。

C_2　5＝2糎。

D_2　＝C_2よりC.F.線に垂直に出したる線と袖附線との交點。

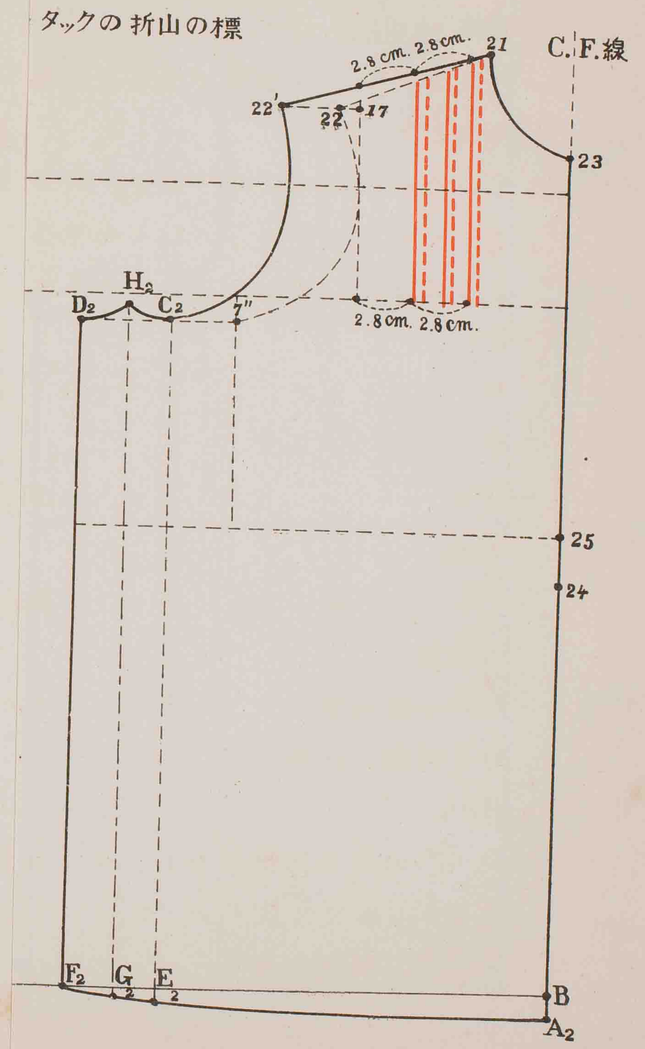
E_2　＝C_2D_2の延長線上にてE_2を定む。D_2E_2は後のEDと同様に度る。

F_2　7″＝E_2D_2。

D_2 7″の形を別紙に寫して切り取り,D_2をE_2に7″をF_2に當てゝ寫す。

G　2＝$\frac{バスト}{24}$。後明の止り。

圖の仕方



附線と

質によ

しき程

Eに,7′

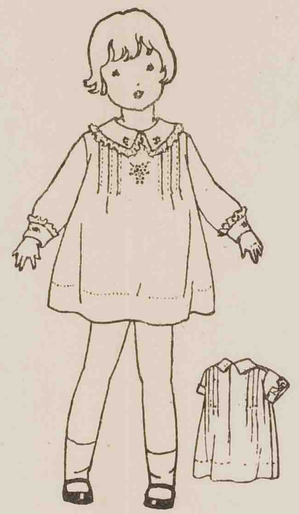
附線と

後のE

D_2をE_2に

イ

出來上り圖



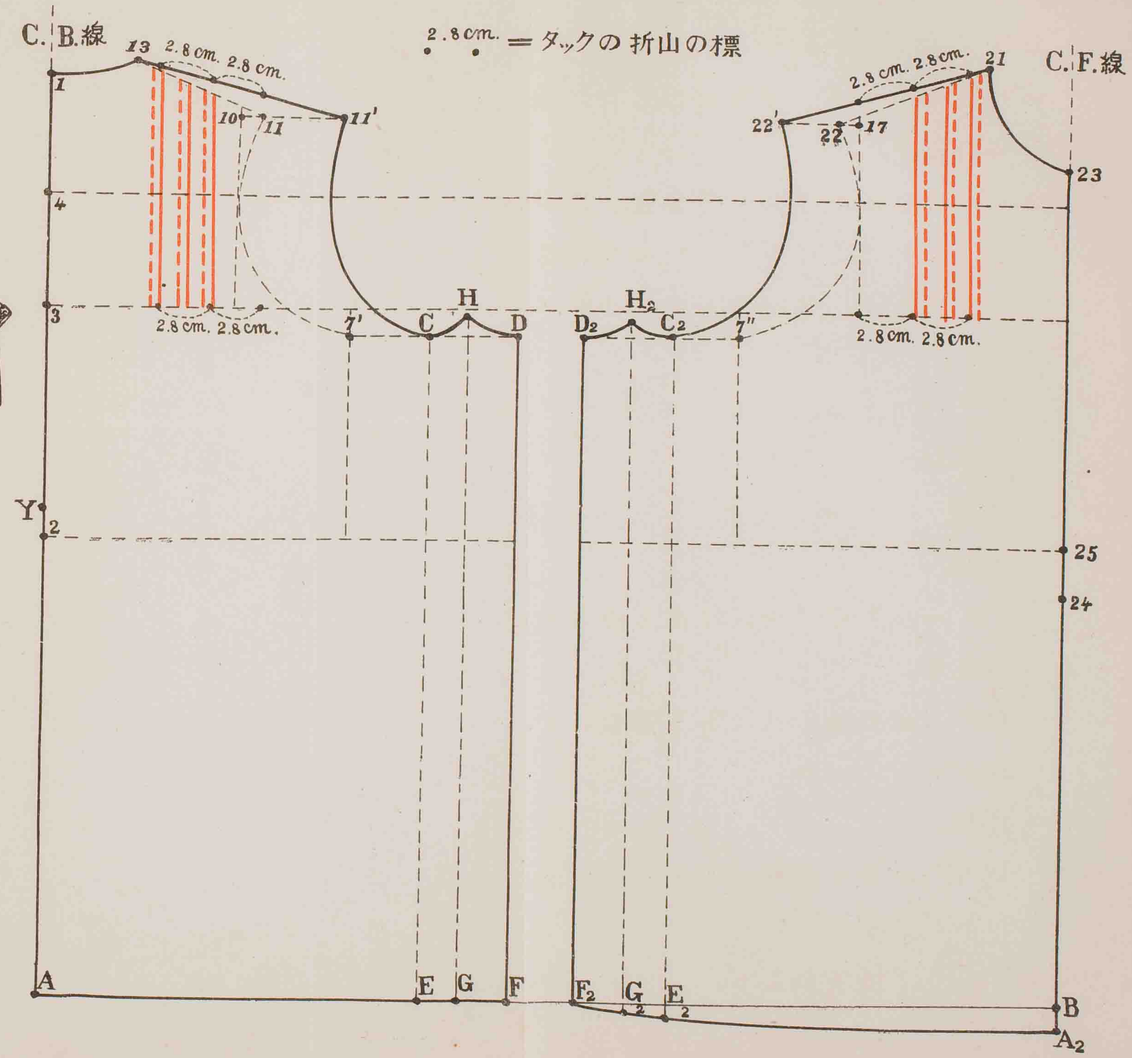
ロ

出來上り圖

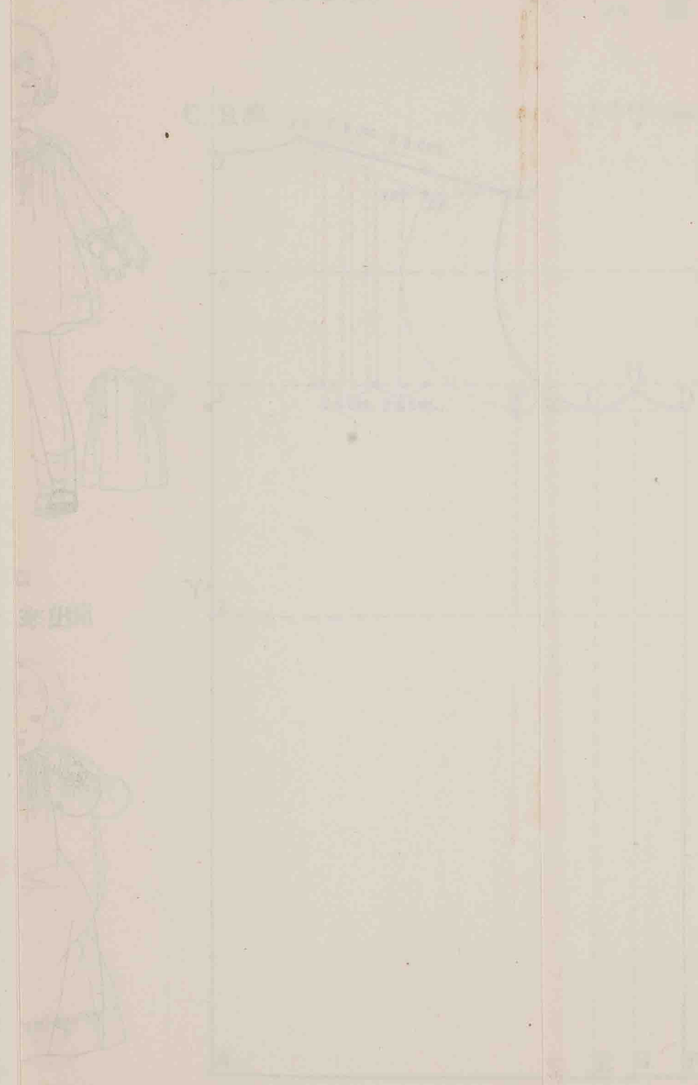
第七十圖

タックしたる形。

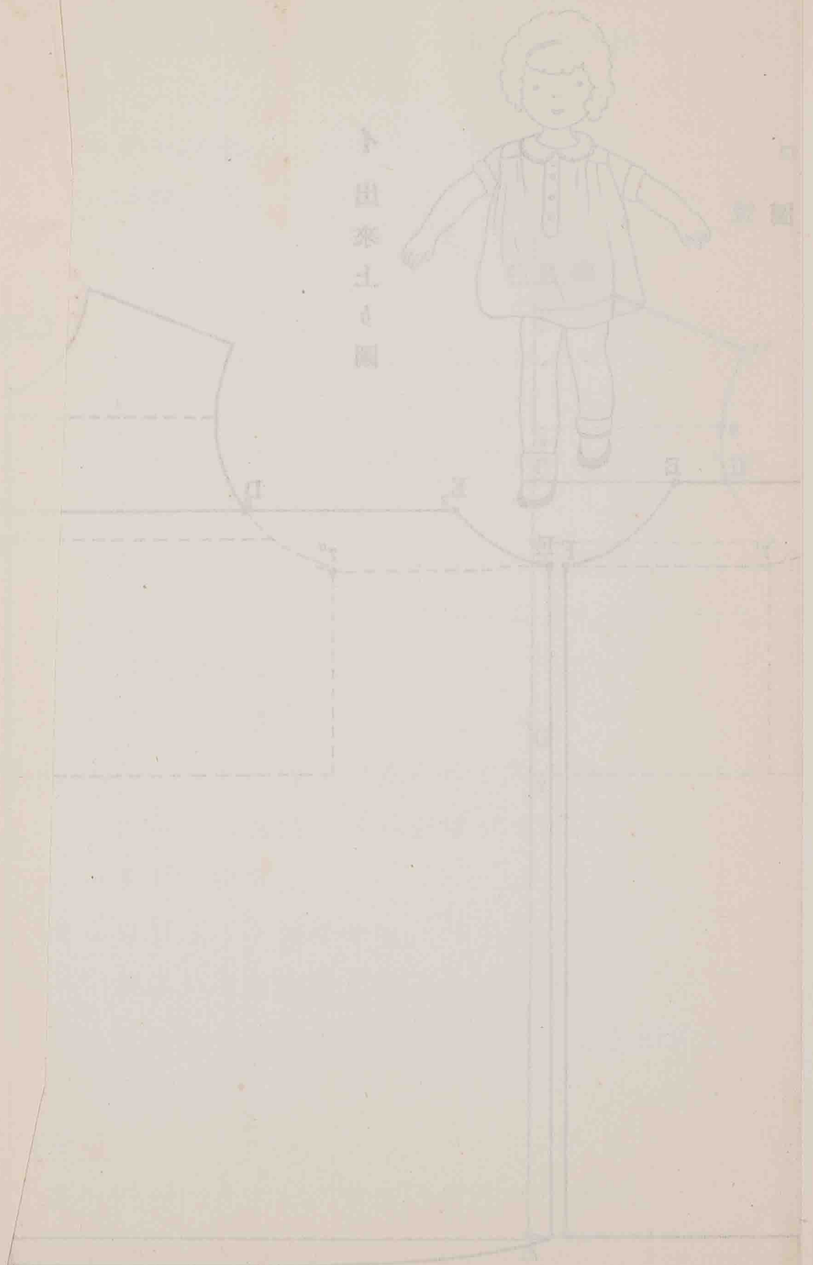
ハ　製圖の仕方



第七十六圖



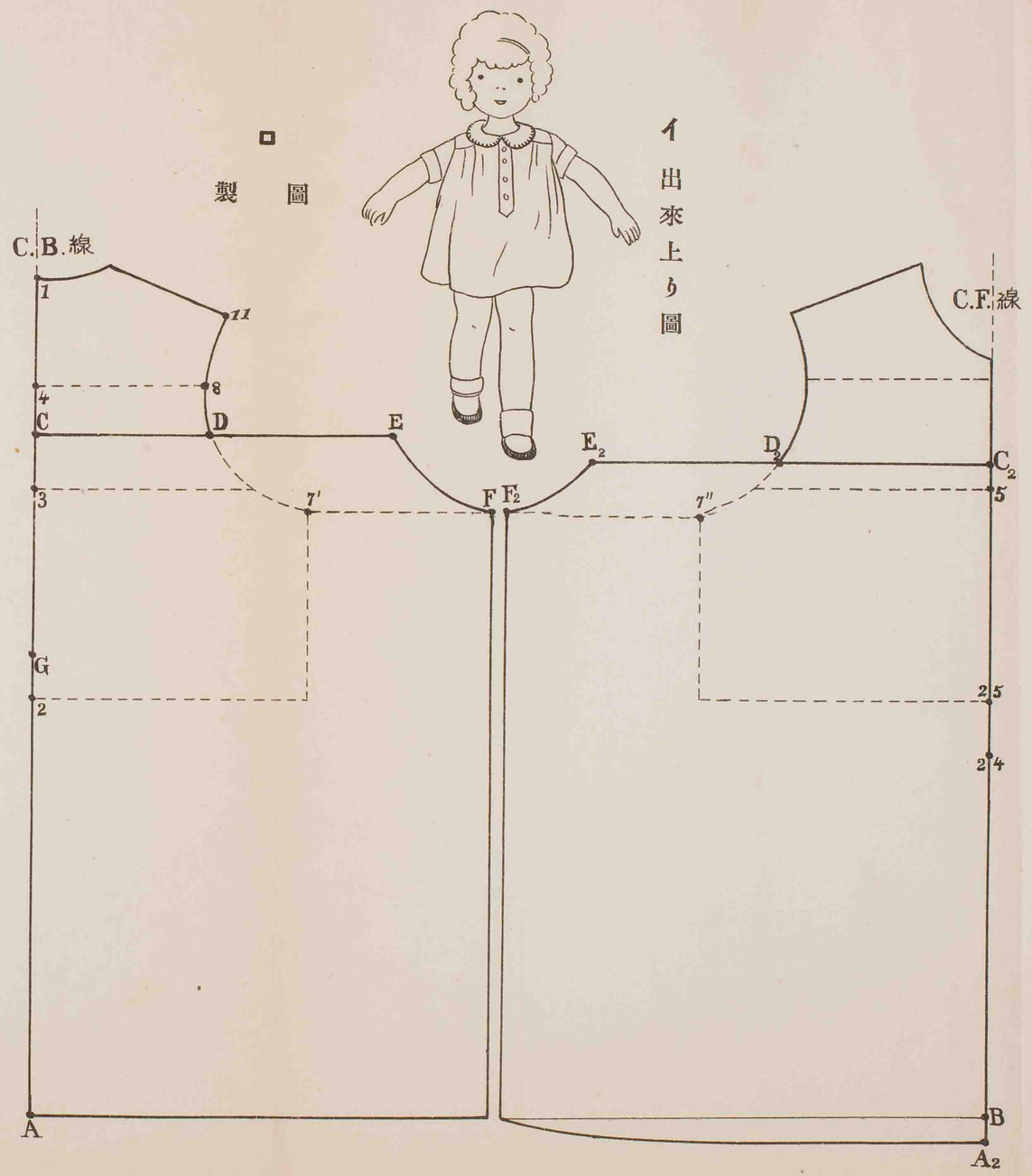
第七十七圖



第七十一圖

第七十一圖

胸繼ぎ形



Ⅲ　丸ヨーク附　(第七十二圖。110頁の次に挿入)

後身頃

A　1＝ドレッス丈。

C　11＝1.5糎。

D　1＝C 13。

　　CDの曲線は13 1の曲線に平行。

E　＝11 10の線を延長しその延長線とC.B.線との交點。

11′　11＝地質によりて一定せざれどE 11の延長上に約E 11と同寸法に取る。

F　＝C,11,8,7の形を別紙に寫して切り,11を11′に合せて置き,Cの當りたる所をC_2とし,7の當りたる所をFとす。

G　＝DCの中央。

H　＝GよりCD線に垂直に出したる線とヨークの曲線との交點。GHを度つて置く。

I　＝DC_2の中央。

J　I＝GHより1糎少なし。

　　D,J,C_2を曲線にて結ぶ。

K　＝FよりC.B.線に平行線を引きこれと裾線との交點。

前身頃

A_2　B＝24 25－(スカート後丈－スカート前丈)。

C_3　22＝1.5糎。

D_2　23＝$C_3$21。C_3D_2の曲線は21 23の衿刳線に平行。

E_2　＝22 17線を延長しその延長線とC.F.線との交點。

22′　22＝後の11′11の11 Eに對する增量と等しく定む。

F_2　＝C_3,22,15,7′の形を別紙に寫して切り取り22を22′に合せて置き,C_3の當りたる所をC_4とし,7′の當りたる所をF_2とす。

G_2　＝C_3D_2の中央。

H_2　＝G_2よりC_3D_2線に垂直に出したる線とヨークの曲線との交點。G_2H_2を度つて置く。

I_2　＝C_4D_2の中央。

J_2　I_2＝G_2H_2より1糎少なし。

C_4,J_2,D_2を曲線にて結ぶ。

K_2　F_2＝K F。且,平行。

A_2,K_2を曲線にて結ぶ。

L　2＝$\frac{バスト}{24}$。後明の止り。

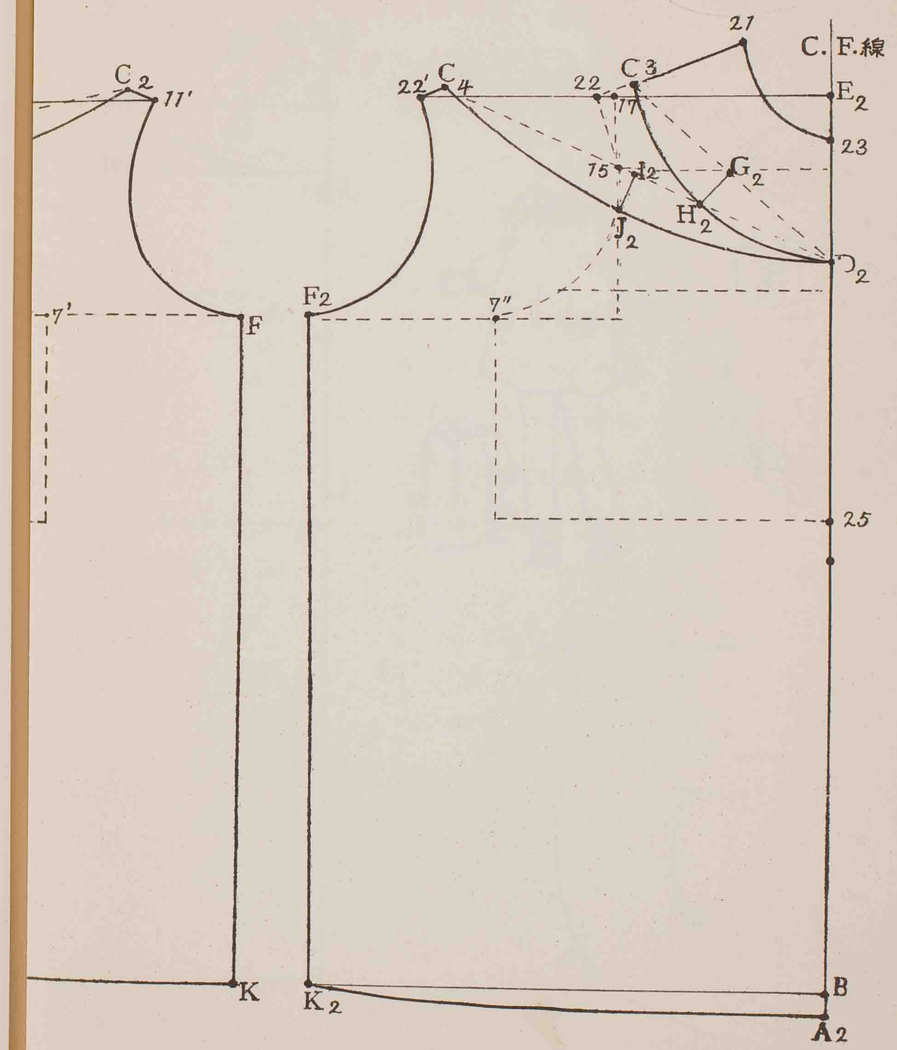
ヨーク

後の1 D C 13を別紙に寫し,前のC_3をCに,21を13に合せて23 D_2C_3の形を寫し,その全體の形の外周を切りて用ふ。

十二圖

附ドレッス

ハ　身頃の製圖



123の衿刳線に平行。
長線とC.F.線との交點。
る増量と等しく定む。
寫して切り取り22を22′
たる所をC_4とし,7′の當

出しだる線とヨークの
度つて置く。

ぶ。

前のC_3をCに,21を13に合
體の形の外周を切りて用

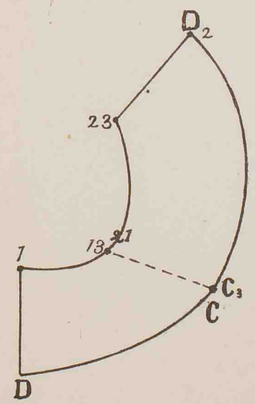
第七十二圖

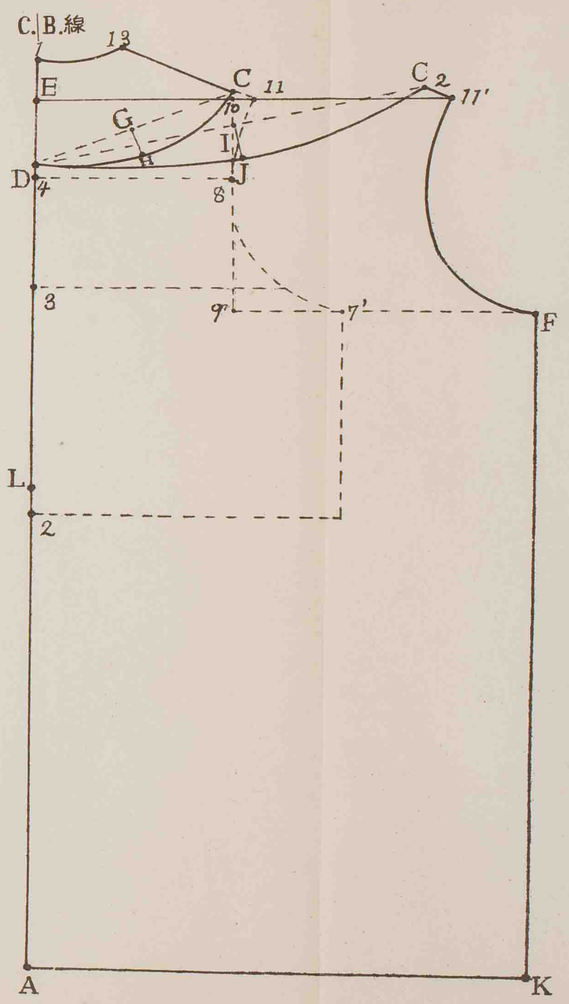
丸ヨーク附ドレッス

イ

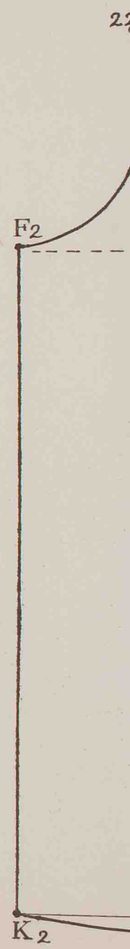
ロ

二、ヨークの取り方





ハ



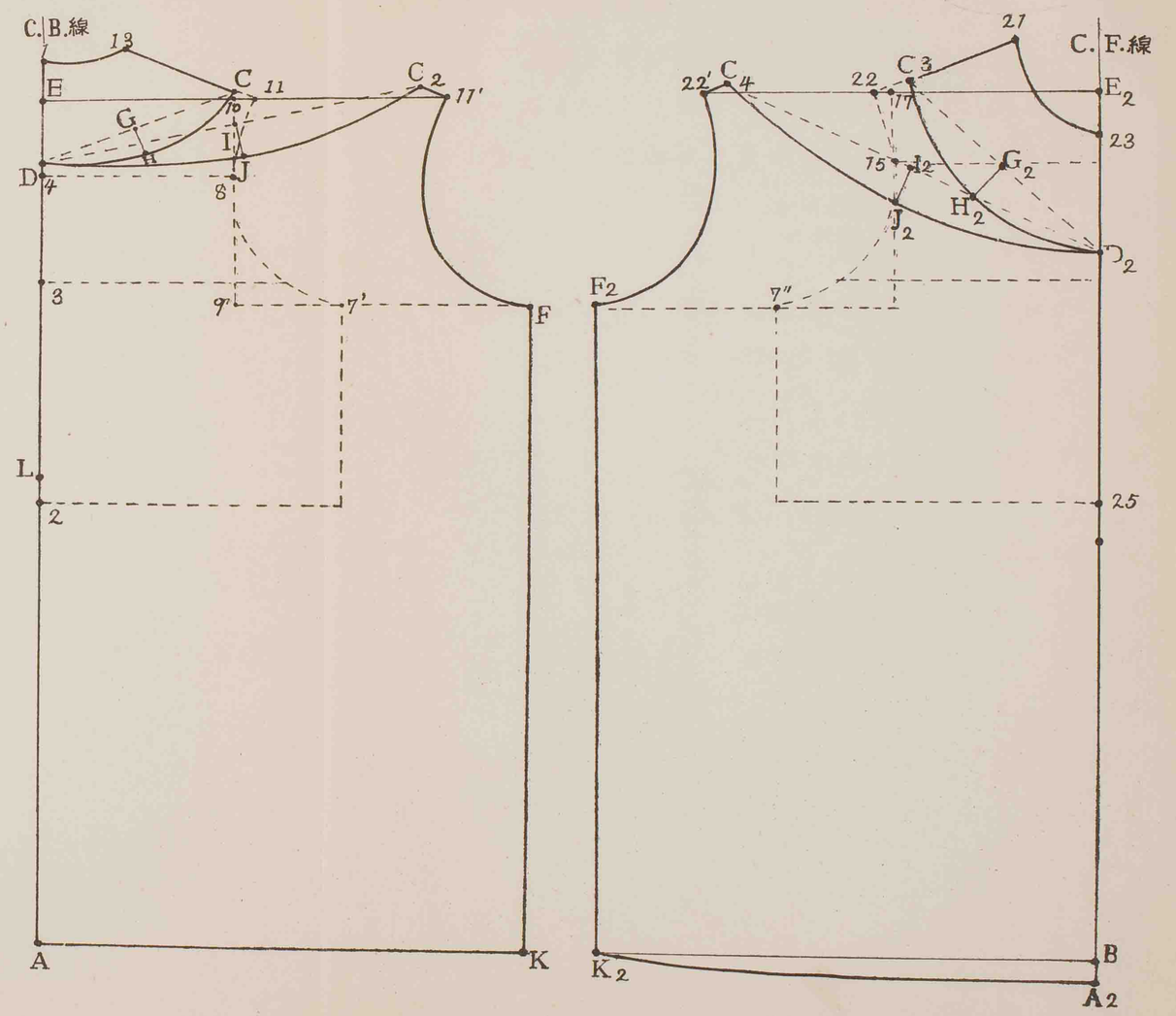
第七十二圖

丸ヨーク附ドレッス

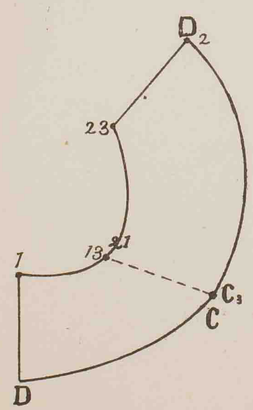
イ

ロ

ハ　身頃の製圖



二、ヨークの取り方



Ⅳ　ネックに於て縫ひ縮めたる形　(寫眞版のB,C)

(第七十三圖。118頁の次に挿入)

身頃の上部　(ニ圖)

1　2＝脊丈。

3　1＝$\frac{脊丈}{2}$。

4　1＝$\frac{脊丈}{4}$。

5　3＝$\frac{バスト}{2}$＋7.5糎。

6　＝3 5の中央。

6′　6＝1.5糎。

8　4＝$\frac{脊幅}{2}$

9　＝8よりC.線に出したる垂線とB.線との交點。

9′　9＝1.5糎。

10　8＝$\frac{4\ 8}{3}$。　9 8の延長上に取る。

11　10＝1糎。

12　1＝$\frac{ネック}{6}$。

13　12＝1糎。

13,11を結び,1,13に後衿肩を畫く。

1′　1＝2糎。後衿刳を畫き直す。

14　＝C.線とC.F.線との交點。

15　14＝$\frac{胸幅}{2}$。

16　＝15よりC.線に出したる垂線とN.線との交點。

17　16＝$\frac{15\ 16}{3}$。

18　＝16 15線の延長とB.線との交點。

18′　18＝1.5糎。

18′　6′　9′＝18 6 9に平行。

19　＝N.線とC.F.線との交點。

20　19＝12 1。

21　20＝1糎。

22　＝17より16 18線に出したる垂線上に取る。

22　21＝11 13。即ち後肩幅に等し。

23　21＝$\frac{ネック}{2}$より1′13の長さ,即ち後衿肩を減じたる寸法に足る様に定める。

A　13＝2糎。

A_2　23＝A 1′。6′,A及び6′,A_2を結ぶ。

B　1′＝11 13。11,Bに後ヨークの形を畫く。

B_2　23＝22 21。22,B_2に前ヨークの形を畫く。

以上の二線は各々衿肩の刳に平行。

以上の製圖によりて作りたる形を基としてヨーク,身頃,袖等を引伸す。

ヨーク(ホ圖)

厚紙にて取りて身頃を縫ひ縮める時の標準とするものにして,布を裁つ爲のものにあらず。

1,13,11,Bの後ヨークを寫し,前ヨークの21を13に22を11に合せ,1,B,B_2,23の前後を續けたものを裁つ。

後身頃(ヘ圖)

C　1′＝ドレッス丈－1 1′。

A　1′＝(ニ)圖のA 1′×5乃至A 1′×6。

9′　A＝(ニ)圖の9′ 6′。

6′　A＝(ニ)圖の6′ A′。

前身頃(ト圖)

C_2　23＝ドレッス丈。即ち後身頃の1′ Cより(ニ)圖のA 6′とA_2 6′との長さの差を減ず。約1.5糎内外なるべし。

A_2　23＝(ニ)圖の$A_2$23×5乃至A 1′×6。

18′　A_2＝(ニ)圖の18′ 6′。

6″　A_2＝(ニ)圖の6′ A_2。

スリーヴ(チ圖)

A　9′＝後身頃即ちヘ(圖)のA 9′。

A 6′の形は後身頃に合せて畫く。

E　6′＝内袖丈。

A　A_2＝(ニ)圖のA 13, 21 A_2の曲線の長さの和×5。

18′　A_2＝9′ 6′。

6″　A_2＝(ト)圖の6″ A_2の曲線の長さ。故に6″ 18′は身頃の18′ 6′の幅より約1.5糎内外狹くなる。

衿刳はディザインに應じて大きく刳り直す。

V　腹部にて繼ぎたる形（第七十四圖。118頁の次に挿入）

身頃

A　1＝ドレッス丈。

B　＝AよりB.線に平行線をひきたる線とC.F.線との交點。

C　A＝7　3。

D　2＝8糎。ウエイストとスカートとの繼ぎ目。

A_2　B＝24　25－(スカート後丈－スカート前丈)。

C_2　A_2＝C　B

E　A_2＝D　A。

F　＝7′ C_2線とD D_2線との交點。

F_2　C_2＝D A。

D線の位置は出來上り圖（イ）のディザインに應じたるものにして（ロ）圖は殆どW.線の位置にて繼ぎ，（ハ）圖は一層下りたる所にて繼ぎたるものなり。そのディザインに應じてDの位置は適當に變ずる必要あり。

襞取りスカート(出來上り圖の(イ))

前　（ホ圖）

F_2　C_2＝前身頃のF_2 C_2。

F_2G，G_2H，H_2I，I_2J，J_2K，J_2K，G_3F_2等は身頃の$F_2E \times \frac{1}{7}$。

G G_2，H H_2，I I_2，J J_2，K K_2，E E_2，K_2E等は

$F_2G \times 2$。

E_2　A_2＝身頃のE A_2。

後　（ヘ圖）

A　D＝身頃のA D。

C　A＝身頃のC A。

F　C＝D A。

L　F
M　C　＝前スカートのG_3F_2。

キヤザーしたるスカート(出來上り圖の(ロ))

後　（ト圖）

A　D
C　F　＝身頃A D。

F　D
C　A　＝身頃のD F × 2。

前　（チ圖）

F_2　C_2
E　A_2　＝身頃のE A_2。

E　F_2
A_2　C_2　＝身頃のE F_2× 2。

サーキュラースカート（リ圖）

出來上り圖（ハ）のサーキュラースカートは大人物の項參照。

第五　ミデイブラウズ（第七十五圖）

身頃（二圖）

1　2＝脊丈。

3　＝$\frac{1\ 2}{2}$。

4　＝$\frac{1\ 2}{4}$。

5　3＝$\frac{バスト}{4}$＋8糎。

6　＝3　5の中央。

7　6＝0.7糎。

7′　7＝1.5糎。

8　4＝$\frac{脊幅}{2}$。

9　＝8よりC.線に出したる垂線とB.線との交點。

9′　9＝1.5糎。

10　8＝$\frac{4\ 8}{3}$。　9　8の延長線上にとる。

11　10＝1糎。

12　1＝$\frac{ネック}{6}$。

13　12＝1.3糎。13, 11を結び1, 13に後衿肩を畫く。

11, 8, 7′に後袖附線を畫く。

14　＝C.線とC.F.線との交點。

15　14＝$\frac{胸幅}{2}$。

16　＝15よりC.線に出したる垂線とN.線との交點。

17　16＝$\frac{15\ 16}{3}$。

18　＝16　15の延長線とB.線との交點。

18′　18＝1.5糎。

19　＝N.線とC.F.線との交點。

20　＝19　16の中央。

21　20＝$\frac{バスト}{32}$。

21′　21＝1.3糎。

22　＝17より15　16線に垂直に出したる線上に定む。

22　21′＝13　11－0.7糎。

22, 7′に前袖附線を畫く。15の點には強ひて觸れずともよし。

23　19＝$\frac{ネック}{6}$。

23′　＝22　17の延長線とC.F.線との交點。

24　23＝前丈。

25　5＝2　3。

25　24＝前後の差。

C　7′＝Cはブラウズの裾となる點にして,着用したる時手首の位置までになすを普通とす。割合なれは7′より内袖丈。ACはW.線に平行。

A_2　B＝24　25－(スカート後丈－スカート前丈)

C_2　A_2＝CB。且,平行。

E　7′＝3糎。

F　E
G　E　＝$\frac{B\ A_2}{2}$。

H　E＝8糎。

21′　5の斜線は出來上り圖(イ)の衿を附くる時

の衿刳。(圖の赤線は胸當)

衿　(ホ圖)

圖の如く後身頃の袖刳線の少しく下より上を別紙に寫し,次に前身頃を21′5の線より折りて21′を後の13と突き合せ,22を後の11と2糎乃至3糎重ねて置き,W.線より上を寫す。

A　3＝$\frac{バスト}{24}$内外。

B　A＝3　9に平行。

B, 5を結ぶ。(點線)

23′に當る樣に内方に丸味を付ける。

A, B, 23,′ 5, 21,′ 13, 1, 2, Aの形は出來上り圖(イ)の如く前衿刳を斜に落したる身頃の衿。

A, B, 23,′ 21,′ 13, 1, 2, Aは出來上り圖(ロ)の如く衿を身頃と配合よき別布,例へば紺サーヂの身頃に對して白サーヂを,或は白のリネンに對してブルーのリネンを用ふる場合等の裏表の衿の形にして,且,出來上り圖(ハ)の如く,表衿と身頃の見返しと續けて裁ち,衿は唯折り返したるものゝ裏衿の形なり。

衿(ヘ圖)

(ホ)圖のA, B, 23,′ 5, 21,′ 13, 1, Aの形を別紙に寫し,23′5線を延長して(ホ)圖の5Cと等しく5Cを定む。C點を直角に,且,CDを3糎乃至3.5糎に定め13, 21を突き合せたる所とDとを結びて線をひく。

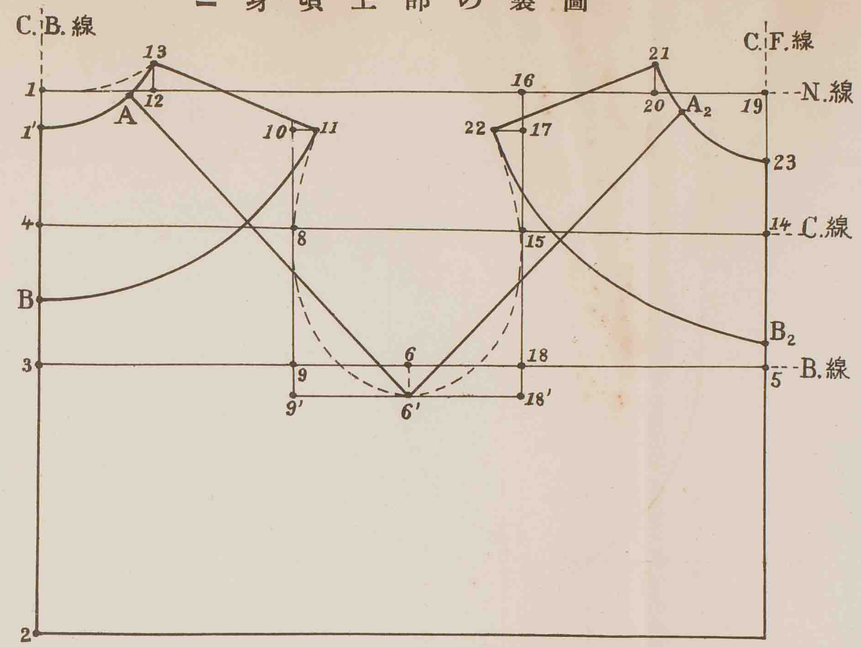
を別紙に
の13と突
W.線より

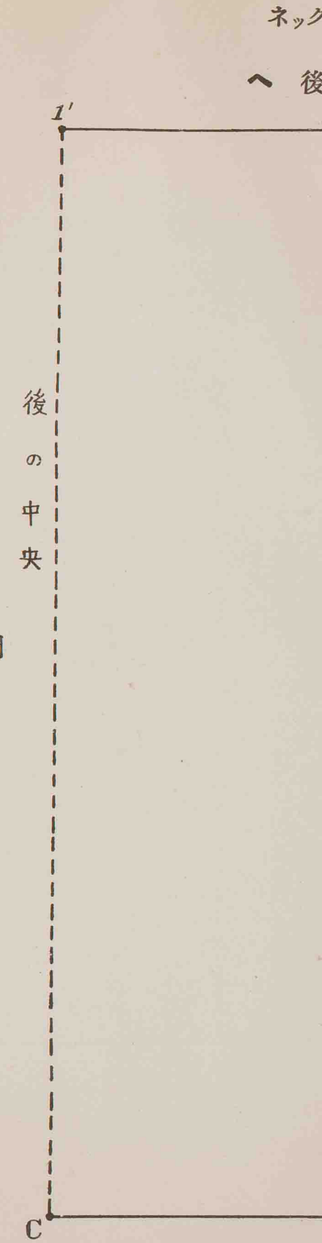
用(イ)の如

く衿を身
して白サ
ンを用ふ
ハ)の如く,
返したる

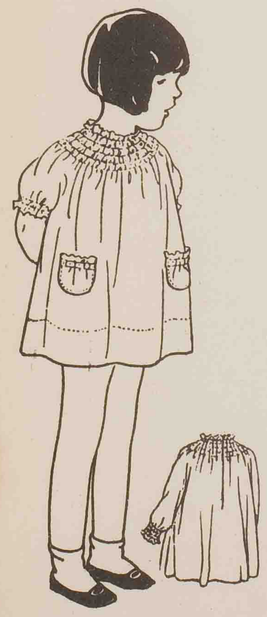
に寫し,23′
む。C點
を突き合

ニ 身頃上部の製圖





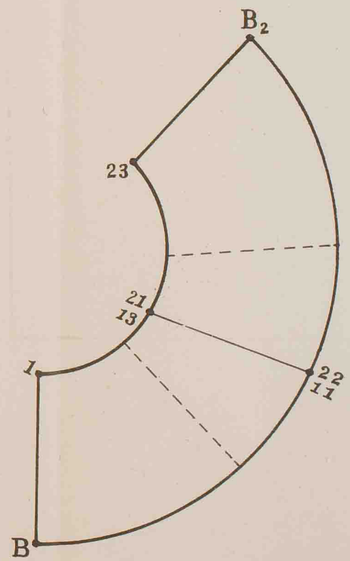
イ



ロ

ハ

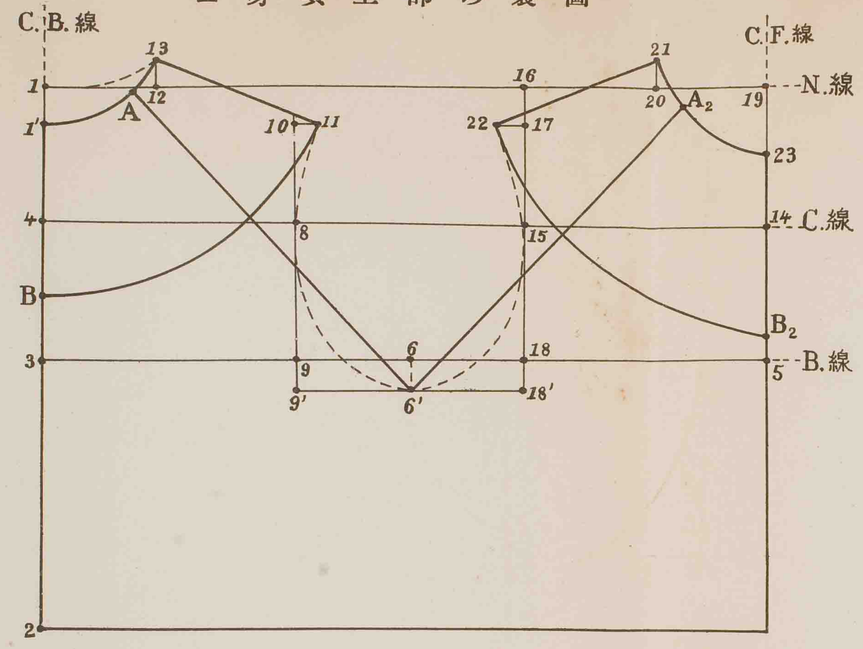
ホ ヨークの製圖
(厚紙)



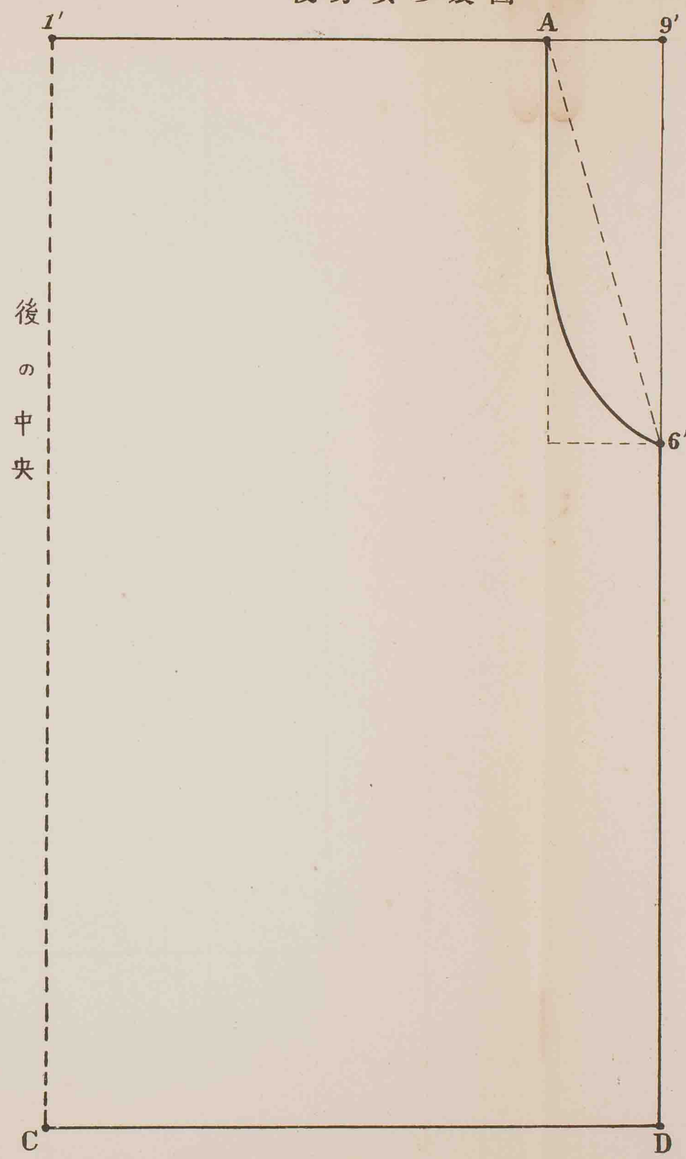
第七十三圖

ネックに於て縫縮めたる形

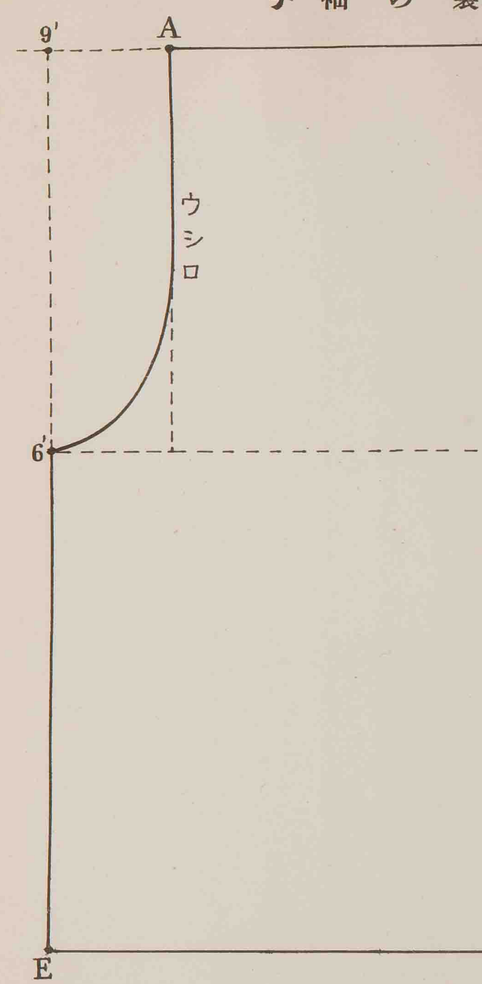
ニ 身頃上部の製圖



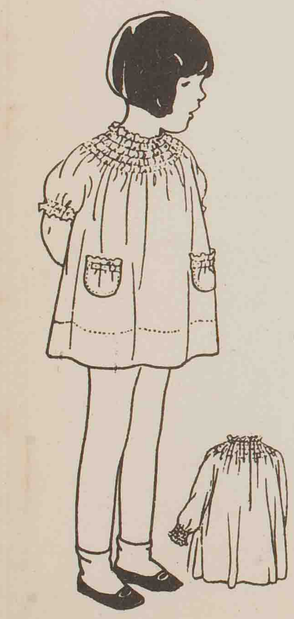
ヘ 後身頃の製圖



チ 袖の製

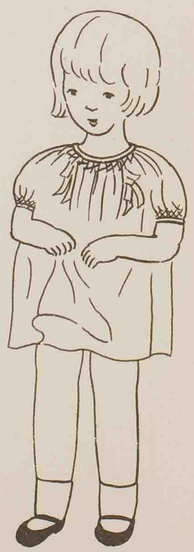


イ



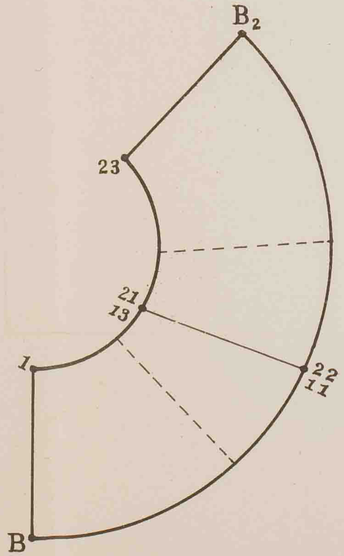
ロ

ハ



ホ ヨークの製圖

（厚紙）

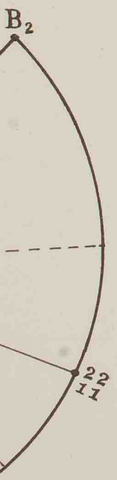


線

線

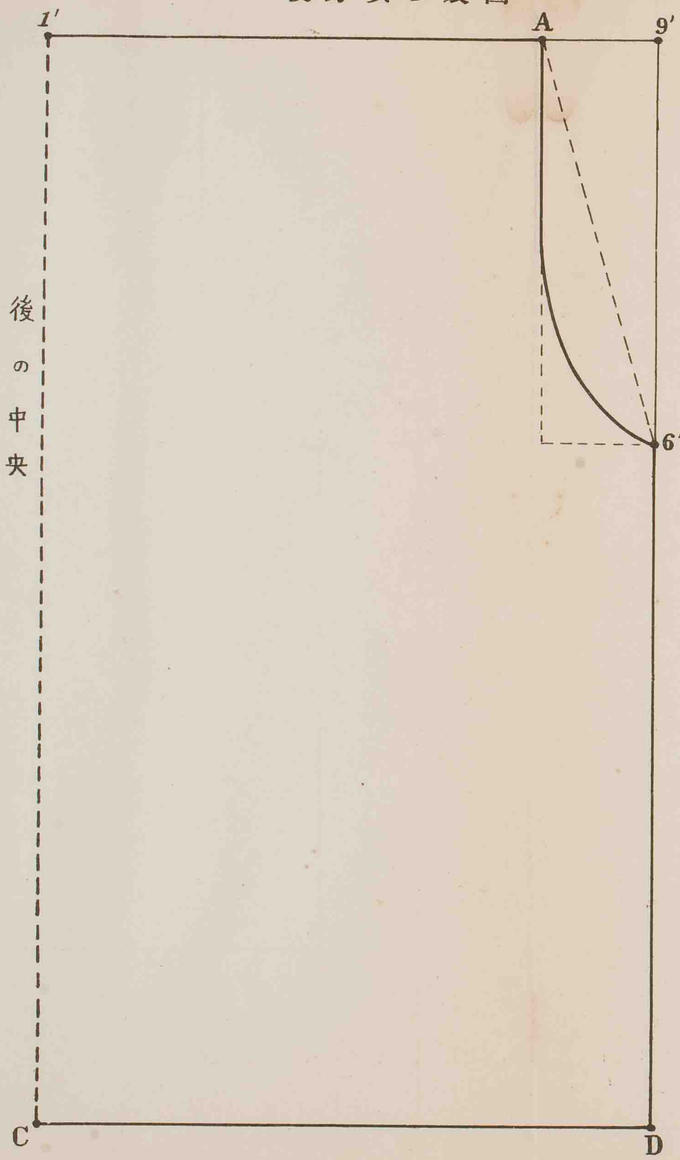
線

ク の 製 圖
紙）

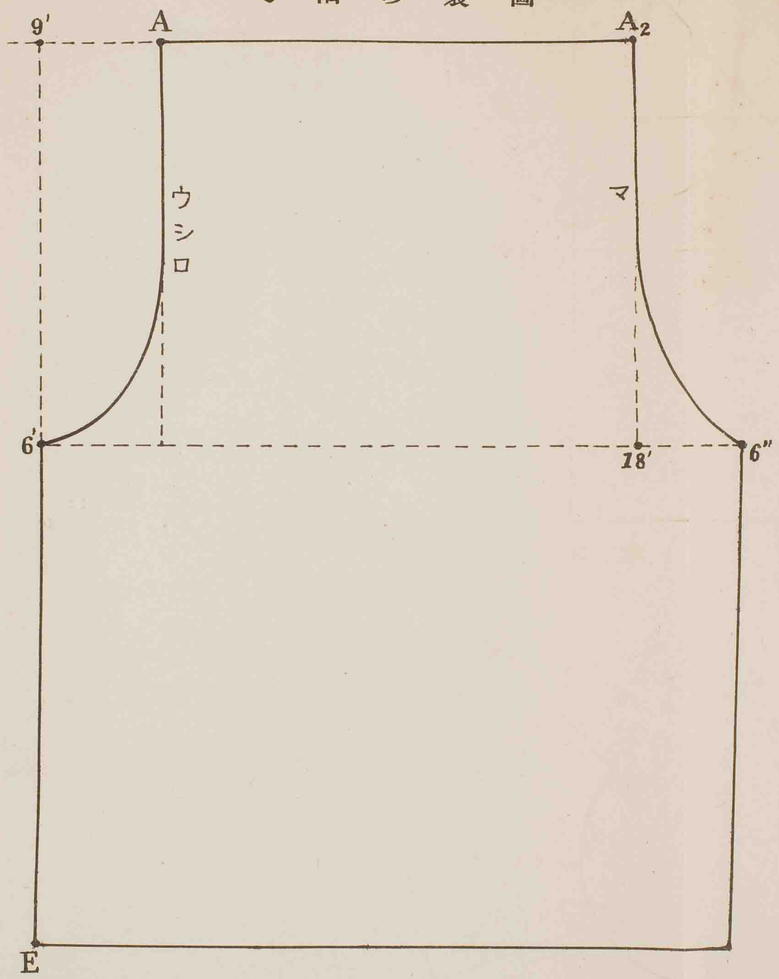


第七十三圖
ネックに於て縫縮めたる形

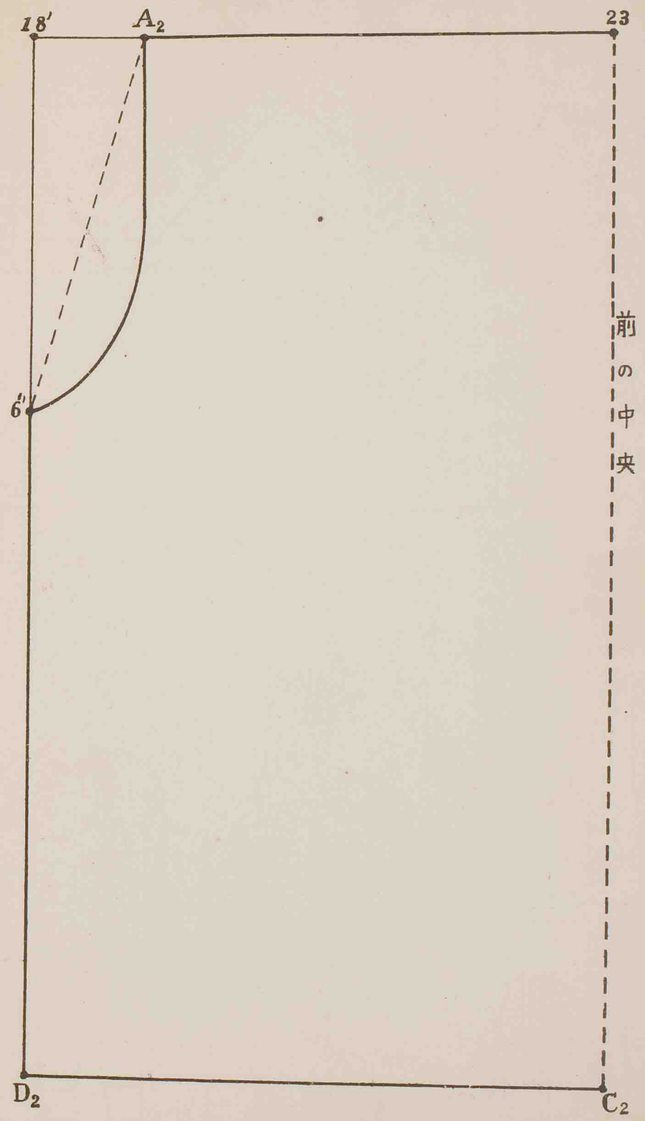
ヘ 後身頃の製圖



チ 袖 の 製 圖



ト 前身頃の製圖

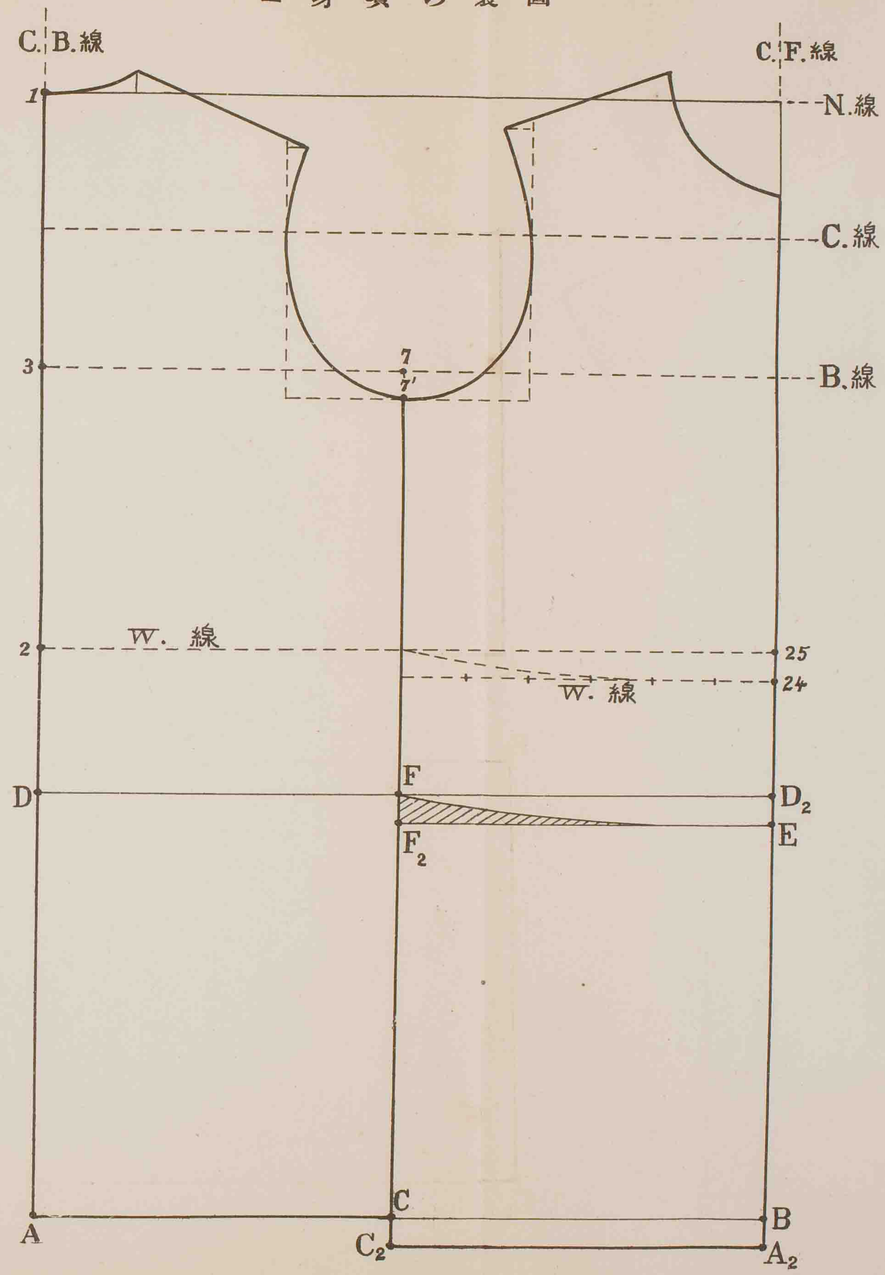


イ

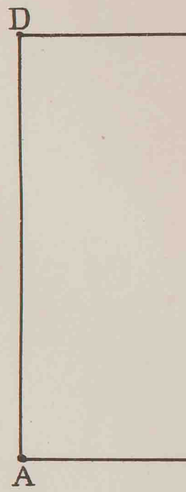
ハ

ロ

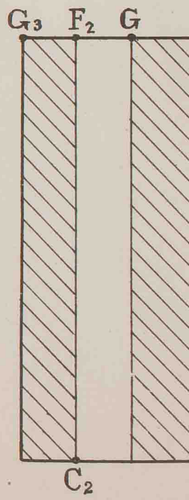
二 身頃の製圖



ホ 襞取り



ヘ 襞取



第七十四圖

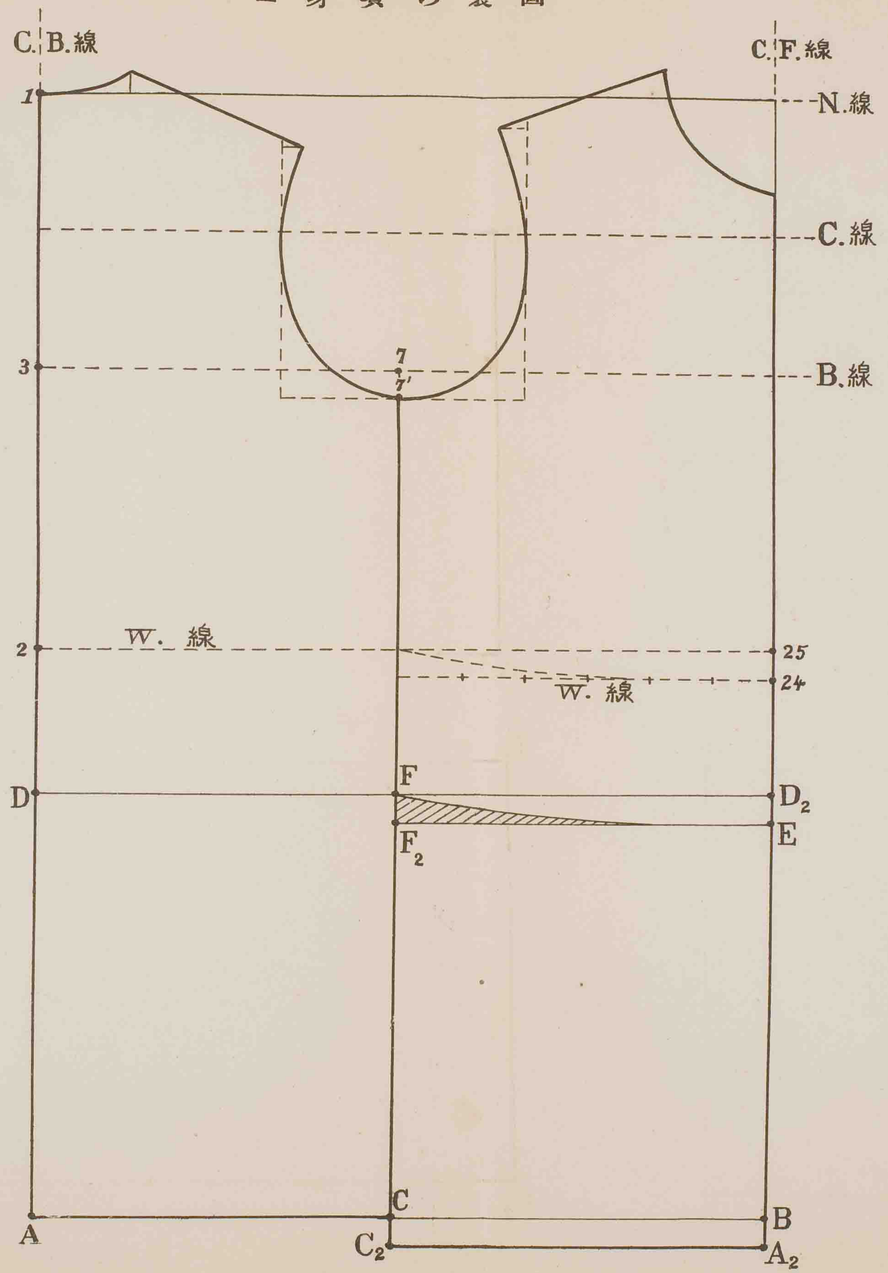
ウエィストにて繼ぎたる形

イ

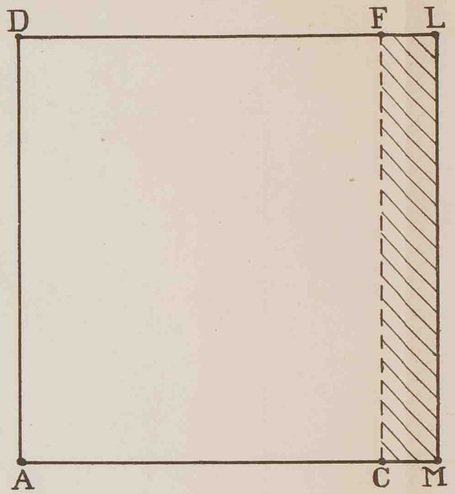
ハ

ロ

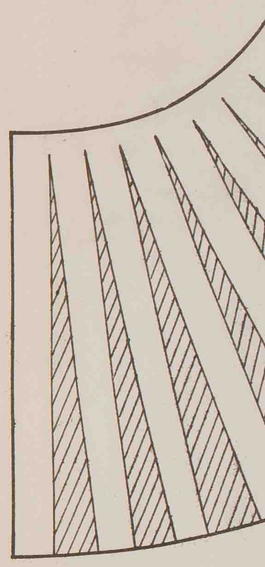
ニ 身頃の製圖



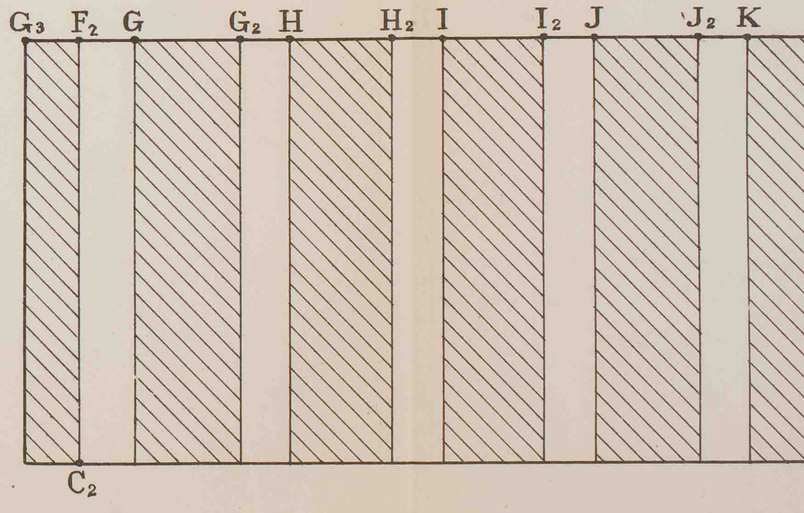
ホ 襞取りスカートの製圖、後



リ サーキュ

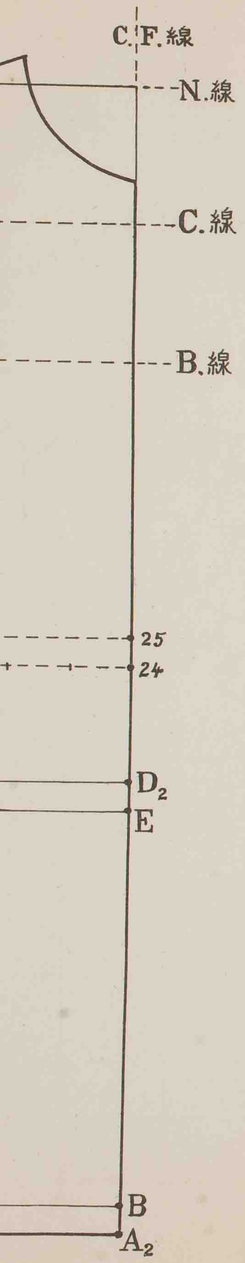


ヘ 襞取りスカートの製圖 前

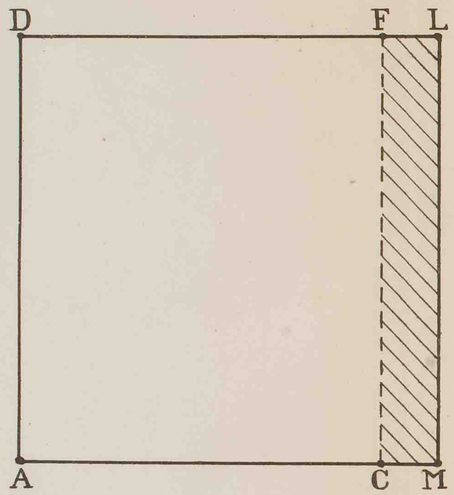


第七十四圖

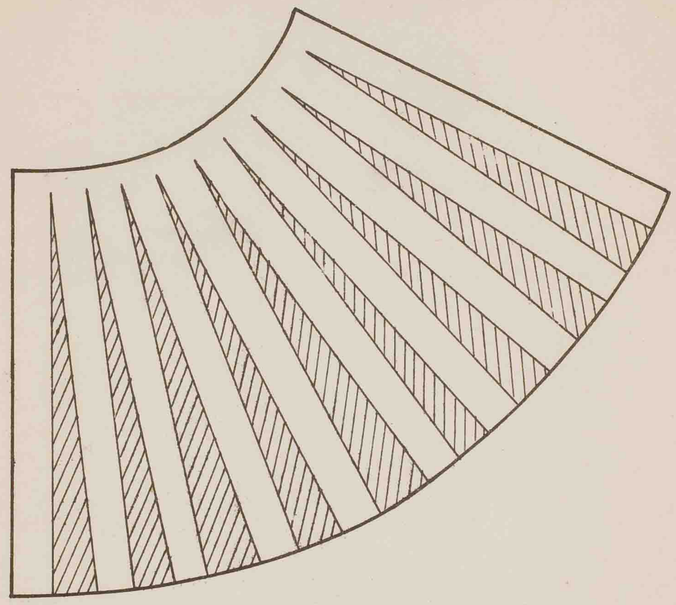
ウエィストにて繼ぎたる形



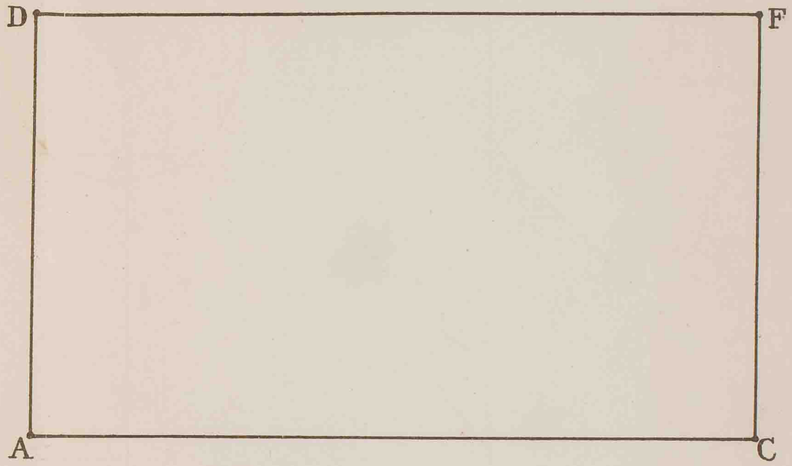
ホ 襞取りスカートの製圖、後



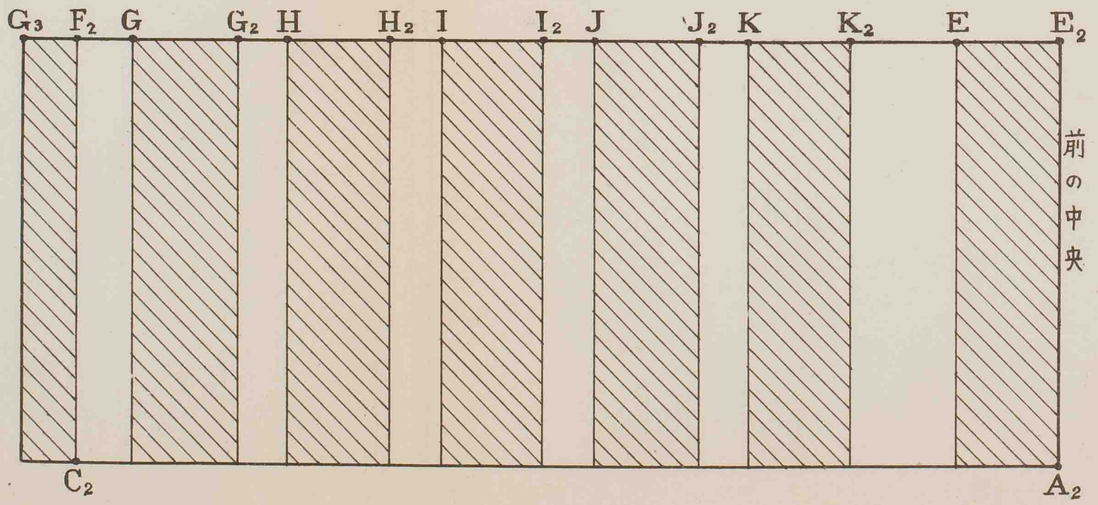
リ サーキュースカートの製圖



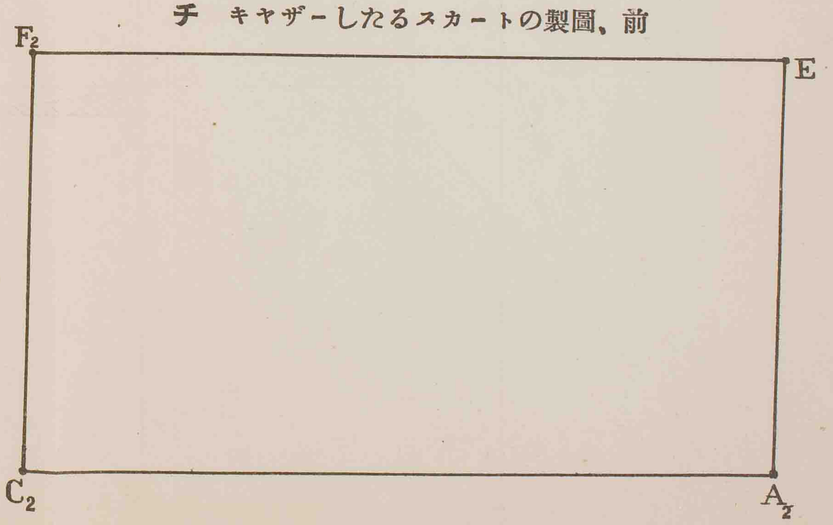
ト キャザーしたるスカートの製圖、後



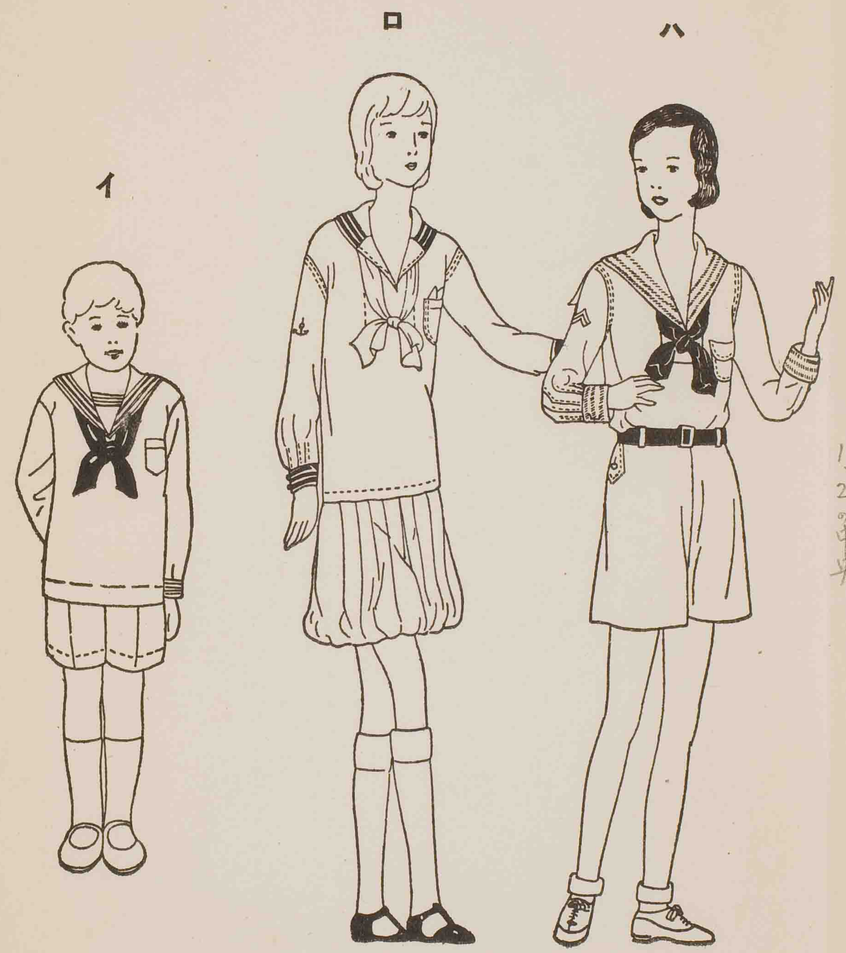
ヘ 襞取りスカートの製圖 前



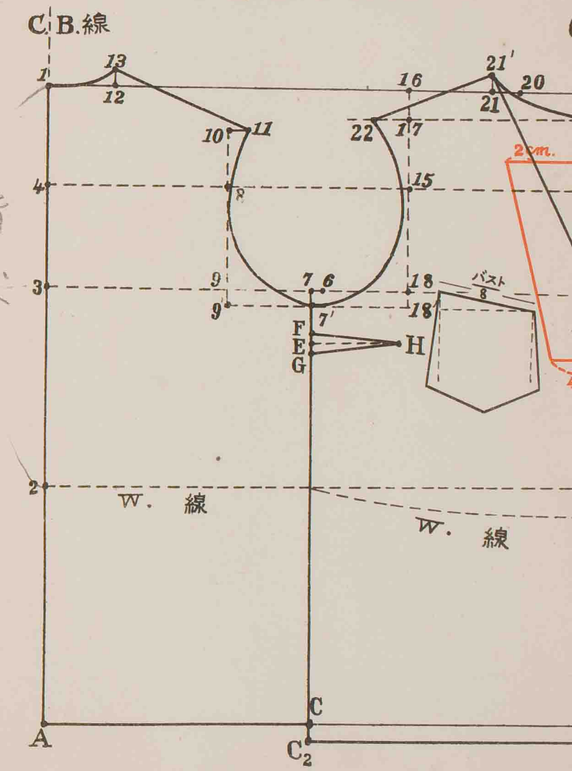
チ キャザーしたるスカートの製圖、前



第七十五圖

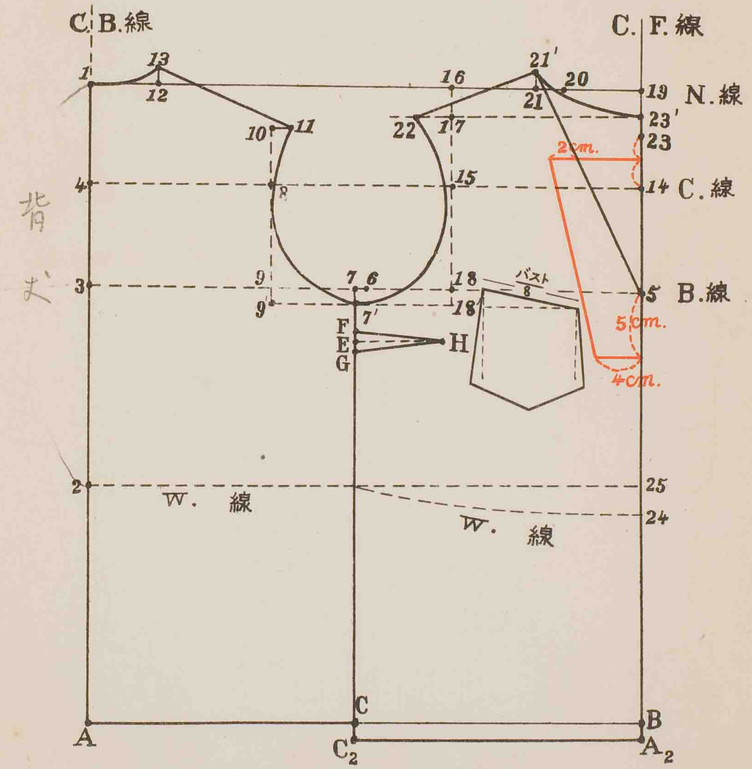


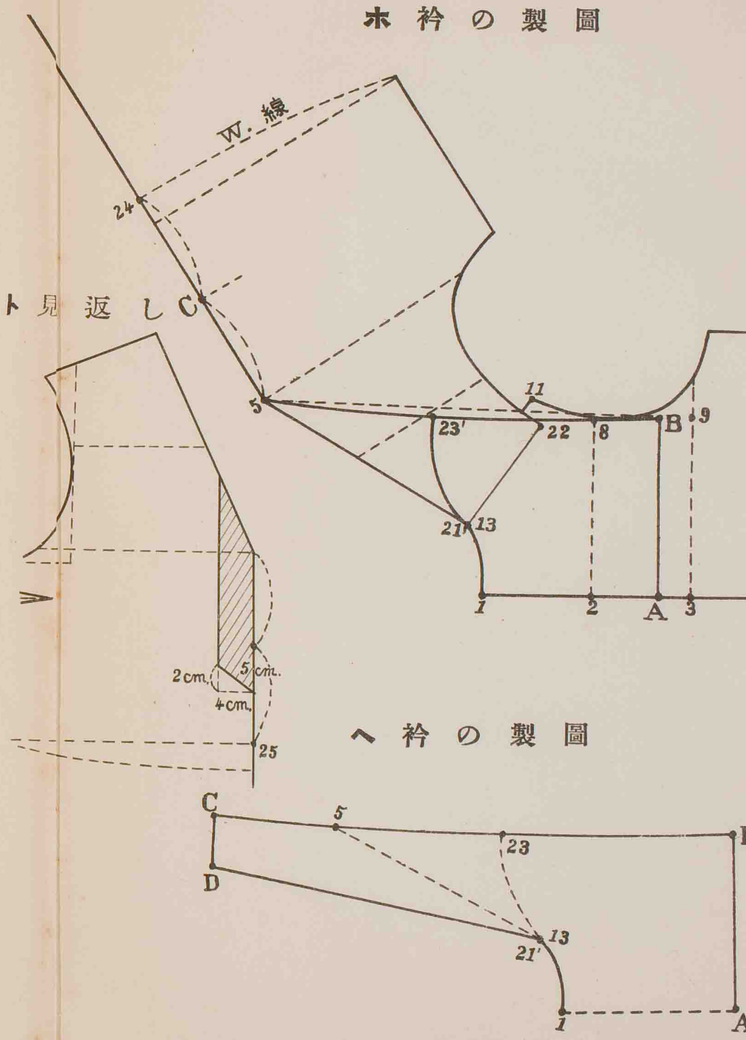
二　身頃の製圖



第七十五圖

イ
ロ
ハ

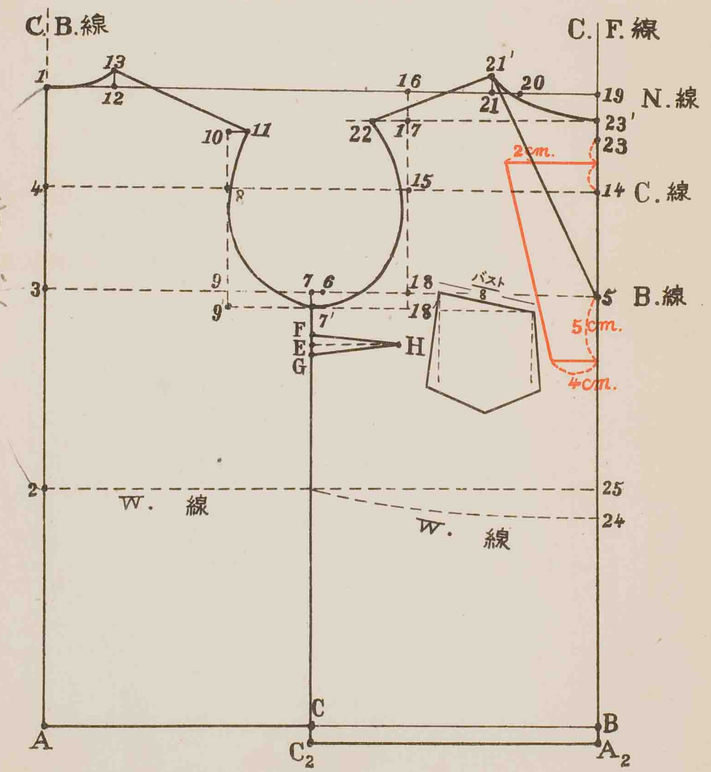

ニ 身頃の製圖
C.B.線
C.F.線
N.線
C.線
B.線
W.線
W.線
背丈
バスト/8
2cm.
5cm.
4cm.
A
C
B
C2
A2


ホ 衿の製圖
ト見返しC
W.線
ヘ 衿の製圖
2cm.
5cm.
4cm.
A
B
C
D

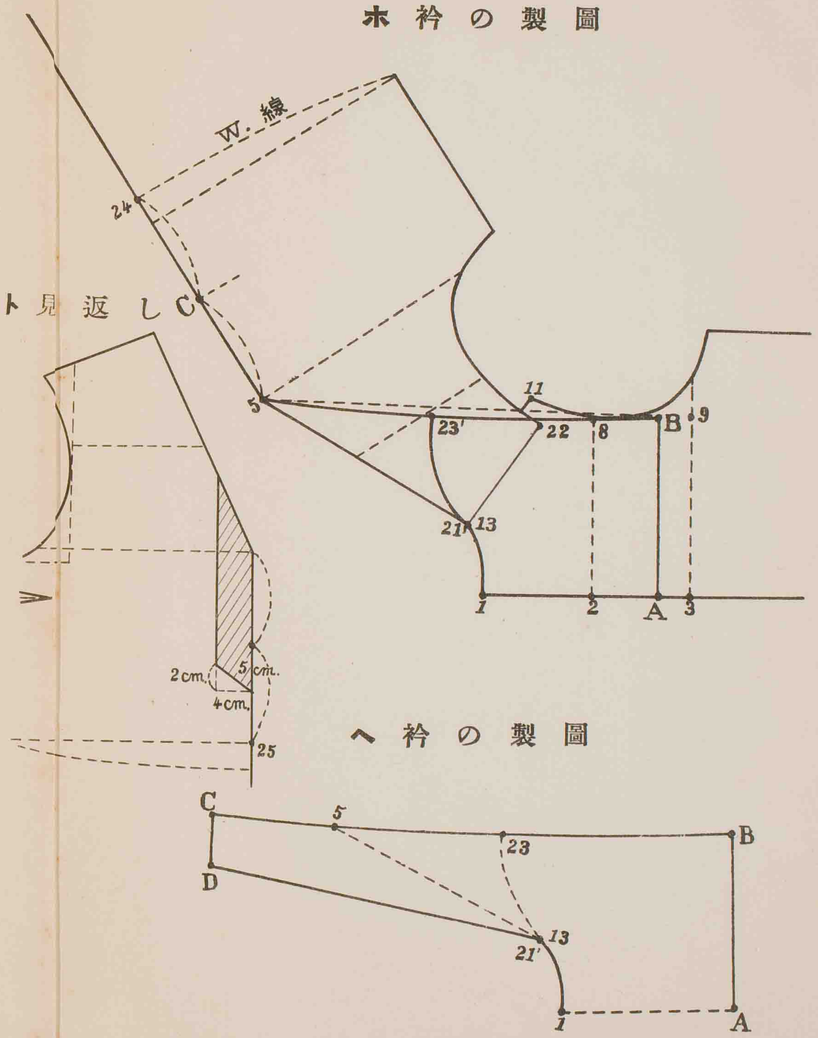
第七十五圖

ロ　ハ

ニ　身頃の製圖



ホ　衿の製圖



ヘ　衿の製圖

この衿は(ハ)圖の表衿にして,且, 13, 23, 5, C, 13 の形は(ロ)圖の見返し形ともなる。

ト圖。出來上り圖(イ)の見返し。

第六　襞取スカート(第七十六圖)

第七十六圖(イ)の如くミディブラウズと共に用ひらるるスカートは,多くウエストにスカートを縫ひ付けて,着用に便利に,且,運動に際して着崩れの心配なき様に作る。第七十六圖(ロ)はスカートを縫ひ付くるウエストの製圖にして,(ハ)はスカートの製圖なり。

ウエスト

先づ原型を寫すか,又は原型と同様に製圖をなしてより以下を書き加ふ。

A　1 = ドレッス丈。

B　= A より C.B.線に出したる垂線と C.F.線との交點。

C 2, C_2 25 } = 5 糎内外。

A_2　B = 24 25 −(スカート後丈 − スカート丈前)。

D　A_2 = A C。

E 26, E_2 26 } = 2 糎。

F　C = $\frac{ヒップ}{4}$ + 1.3糎 − 0.7糎。

F_2　D = $\frac{ヒップ}{4}$ + 1.3糎 + 0.7糎。

1′　1 = 2 糎。

13′　13＝2糎。後衿肩を畫き直す。

21′　21＝2糎。

23′　23＝0.7糎。前衿肩を畫き直す。

11′　11＝2糎。

7″　7′
22′　22　＝2糎。袖附線を刳り直す。

CFF₂Dの線より上がウエイストの形にして,以下はスカートの丈を定む爲の線なり。

C　A
D　A₂　＝スカート丈。

G, H, I, J, K, L, M, N は襞山の位置にして,BAよりFF₂の寸法を減じたるものを八等分,九等分,或は十等分する等ディザインとドレッスの大さとによつて定む。但し襞山より襞山までの幅は$\frac{ヒップ}{12}$以上にならざる樣に注意するを要す。

スカート

C　A
D　A₂　＝スカート丈。身頃のスカート丈に同じ。

DG, G₂H, H₂I, I₂J, J₂K, K₂L L₂M, M₂N 等は何れも身頃の襞山より襞山までの幅。

GG₂, HH₂, II₂, JJ₂, KK₂, LL₂, MM₂, NC は襞の深さにして,襞山より襞山までの寸法の二倍。但し用布の都合によりては多少淺くするも可なり。

第七　ブラウズ及びギャムプ　Blouse及びGuimpe

(第七十七圖。124頁の次に挿入)

第七十七圖の(イ)及び(ロ)はギャムプにして,(ハ)及び(ロ)はブラウズなり。大同小異の物にして,唯ギャムプの方は,常にネックを低く刳りたるドレッス(オーヴァードレッス等とも云ふ)と共に用ひられ,運動服として便利なるが故にジャムパーとも稱せらる。

出來上り圖の(イ),(ロ),(ハ)の三種は,原型を寫してウエイスト線以下をブラウズの丈に伸したるものにして,衿はディザインに應じて製圖す。三圖ともにローリングカラーなり。(第48頁參照)

但し(ハ)はドロップショルダーなるが故に大人物の如く肩の縫目の位置を變ず。(第56頁第57頁參照)

(ニ)は以上の三つのものより肩下少なく,肩幅,脊幅,胸幅等は廣し。從つて第七十七圖(ホ)の如く先づ原型を寫すか或は原型と同樣に製圖したる後ち以下の如く變更す。

A　6′＝內袖丈。

B　＝Aより6′A線に出したる垂線とC.F.線との交點。

B　25
C　2　＝A 26′。

A₂　B＝24 25−(スカート後丈−スカート前丈)。

10′　＝9′ 10線の延長とN.線との交點。

10″　＝10 10′ 中央。

11′　＝10″より10′ 10の線に垂直に出したる線上に定む。

11′ 13＝11 13卽ち普通の後肩幅より2糎廣く定む。11′ 6′の後袖附線を畫き直す。

17′　＝16 17の中央。

22′　＝17′より16 17に出したる垂線上に定む。

22′ 21＝22 21の前肩幅より後肩幅を廣くしたるだけ廣くする。前の袖附線を畫き直す。

23′ 23 A_3 A_2 ＝1.2糎。前の重なりの二分の一。

F　23＝5 23の三分の一。21, Fを結ぶ。

G　＝21とFとを結びたる線と衿刳線との交點にして衿肩を刳直す。G 23′の間は直線に,21 Gの間は原型を寫したるものより丸味を少くす。

F_2　＝21, Fを結びたる線の延長と23′ A_3線との交點。

H A_3 I 23′ ＝2.4糎。出來上りの見返し幅。

23′ A_2の線に縫目を付けずに見返を續けて取りてもよし。

ボタンは24の點に一つ。折目の終りに一つ。その間を三等分して二つ標をなし,その標を中央にして竪穴を明ける。

見返は出來上り圖の如く裏に付けてもよし。

カラー(第七十八圖)

前身を折目の線より折りて別紙の上に置きて製圖す。

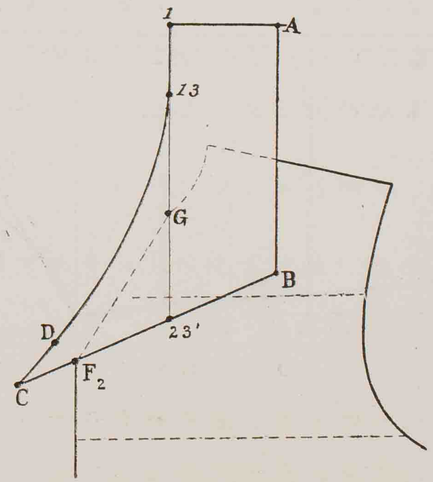
1　23′＝23′Gを延長したる線上に身頃の後衿肩卽ち,1 13と前衿刳卽ち21 23′までの寸法の和。

13　1＝後身頃の13 1。

A 1 B 23′ ＝適宜。ABは1 23′に平行。

C　F_2＝3糎。

D　F_2＝2糎。

13よりDを經てCに終る曲線を畫く。

第七十八圖
衿の製圖